

【 会員のページ 】

伊佐公男会員 日本化学会「化学教育賞」受賞

伊佐公男会員（福井大学 教育地域科学部 教授）が平成20年度日本化学会表彰において第33回「化学教育賞」を受賞された。「化学教育賞」は、国際的および全国的視野において化学教育の分野でとくに顕著な業績または功績のあった日本化学会会員に授与される賞である。本会会員では、平成14年度の田中春彦会員に続く受賞者となられた。

伊佐先生の受賞講演は、「質量分析、物理化学から科学教育実践への貢献」と題して、3月29日に日本化学会第89年会（日本大学理工学部船橋キャンパス）の化学教育セッションで行われた。（写真）熱測定学会の会員にとっては、質量分析のご専門をベースとして熱分析と質量分析の複合化のための先駆的研究を推進されてきた伊佐先生の姿がまず思い浮かぶが、一方で初等中等学校の教員養成に心血を注がれてきたご様子がひしひしと伝わってくるご講演であった。伊佐先生は、「化学をベースとした理科教育実践によって児童・生徒の創造性につながる研究姿勢を育成することのできる教員を養成する。」との信念に基づき、教員養成を柱として化学教育の分野で多大な貢献をされてきた。必ずしも化学を専門としない教育学部の学生に、科学の面白さを伝えるとともに、身の回りの事象を科学的な目で見たり考えたりする姿勢を育成するための指導をされてきた。また、理科教員を目指す学生には、将来の理科教育を担うものが、科学研究の一端にも触れずに、単に教壇に立つためだけの技能を得るだけであってはならないとの厳しい指導をされてきた。教員養成を目的とする大学・学部では、このような日常の教育活動に惜しみなく労力を注ぐことのみが、理想とされるべき理科教員を養成するための唯一の方法なのだということを伊佐先生のご講演を通じて改めてご教授いただいた。

中学校や高等学校の現場の先生方を支援する活動にも精力的に取り組まれてきた。全国規模の理科教員の研究会での助言指導が行われるとともに、自らも「理科教育ワークショップ研究会」を組織され、代表として理科嫌いや理科離れといわれる学校現場の現状を打開するための実践授業研究に取り組まれている。



さらに、持続可能な発展を可能にする社会の形成に理科教育の立場から貢献することを命題として、エネルギー環境教育についての教育実践的研究が行われている。エネルギー環境教育学会の設立に参加されるとともに、エネルギー環境学習研究会を開催してこられた。原子力発電をはじめとした福井県のエネルギー問題に関する地域的特色を考慮して、地域に根ざしたエネルギー環境教育のカリキュラム開発と授業実践を支援されている。学校教育の現場と密接な関係を保ちながら理科教育の研究を推進することにより、大学での理科教員養成に現実的課題をフィードバックすることができることを教えていただいた。

熱測定に関する分野では、日本におけるTG-MS装置開発の代表的研究者として、TMS研究会を設立され、会長を務められてきた。伊佐先生の穏やかなお人柄の一方で、教員養成を担う教育者であるとともに、自らが科学の研究者であり続けるべきとの強い信念を感じる事ができた。伊佐先生のこの度のご受賞を会員の皆様とご一緒にお祝いするとともに、先生のますますのご活躍を祈念したい。

（広島大学大学院教育学研究科 古賀信吉）